

# 人の繋がりを心のつながりに

## 中村正佛堂（和歌山・みなべ）

中村正佛堂の歴史は初代中村正一氏から始まる。正一氏は大正11年生まれで戦前は大阪仏壇の木地を作り、市内の有力店に納めていた。

現社長の中村泰介氏は昭和三十一年生まれ。学校を卒業と同時に中村正佛堂に入り、仏壇仏具の販売に情熱を注いできた。

そして泰介社長の後を継ぐのが長男の中村光希氏だ。光希氏は昭和五十七年生まれ、大学を卒業後に大阪の仏壇仏具製造工場

「小さい時から後を継ぐものと思っていましたので、業界に入ることは当たり前のことでした。修業先では仏壇仏具の製造工程を一通り学び、主に箔押しや寺院仏具の組立

中村正佛堂に戻ってきたのは二十四歳の時のこと。中村正佛堂に戻ってきたのは二十四歳の時のこと。中村正佛堂に戻ってきたのは二十四歳の時のこと。

「それまでも家業のことを見てきたわけですが、地元に戻って来て感じたことは、うちの店のあるみなべでは、大阪に比べると大きなサイズの仏壇が売れるということです

ね」

みなべは南高梅で知られる土地、和歌山県の南部に位置する（みなべ町は2004年に旧南部町と南部川村が合併して誕生）。大阪とはやはり仏壇市場が異なる。

「うちに戻って来て、一人で店番をしている時に二、三組のお客様が入ってこられて皆さんに仏壇をお買い上げ頂いたことは印象に残っています」と語る光希さんは根っから仏壇屋としての能力が備わっているのだろう。「地元は人と人のつながりも強く、気軽にお客様



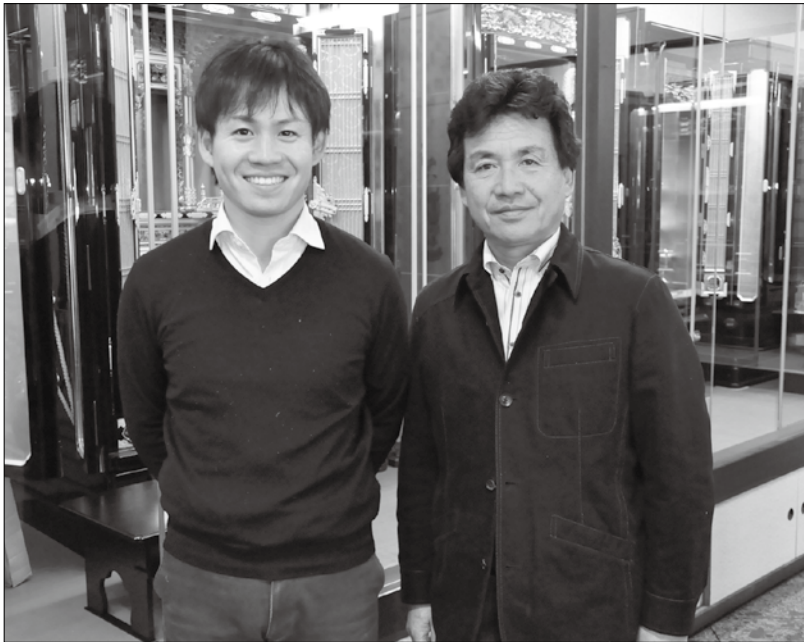
から色々なことを頼まれます。頼まれたことを丁寧に一つひとつこなして行くことが次の仕事に繋がって行くと思います」と光希さんは語る。

祭礼が多い土地柄で、取材で訪問した際には墨書された灯籠が店内にあったが、この墨書は中村社長自ら書いたものだという。

「祭礼用品は地元との繋がりの中で大切なアイテムです」

祭礼が心と心をつなぐのように、光希さんも仏壇や祭礼具の販売を通して、人と人との心をつないで行くことになる。

◎中村正佛堂 和歌山県日高郡みなべ町埴田一五七四一七 TEL〇七三九（七二）四四〇一 FAX〇七三九（七二）四八二〇



中村光希氏（左）と中村泰介社長



中村社長による力のある墨書の灯籠（左）



中村正佛堂社屋（右）

中村正佛堂は霊供膳用のお供え「ご先祖さま」を開発  
地元のあみだ食品が製造販売を行う  
本社の隣にはあみだ食品の加工工場がある